

農業技術センターニュース

目 次			
トルコギキョウ 2～3 月出し高品質安定生産技術	・・・ 1	ニラ栽培における農薬の灌注処理時の注意点	・・・ 4
グロリオサにおけるアザミウマ類の種構成とその発消長	・・・ 2	ショウガ青枯病に対する低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒の防除効果	・・・ 5
ナス養液栽培におけるトマト強勢台木の特性	・・・ 3	‘よさ恋美人’の収穫時期早進化技術	・・・ 6

トルコギキョウ 2～3 月出し高品質安定生産技術

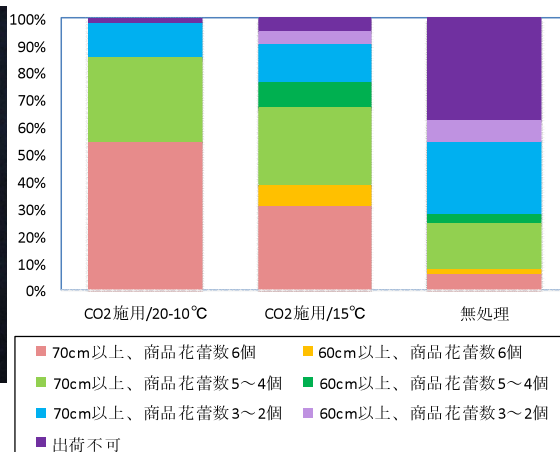


図 1 出荷規格別割合

表 1 技術の内容

表 1 授粉条件					
施用期間	CO ₂ 施用		昼温	夜温	
	施用濃度			加温開始～開花開始	開花開始～収穫終了
	換気窓閉鎖時	換気時			
頂花発蕾後～収穫終了	1,000ppm	400ppm	25℃	日没後3時間20℃、その後朝まで10℃	15℃一定

トルコギキョウの冬春出し栽培では、日射量が少ないことによるブラスチング（正常に発達しない花蕾）の多発が問題となっています。この作型で花蕾の発達時期にあたる時期は日中でも栽培施設が閉鎖状態であり、炭酸ガス（以下 CO₂）濃度が外気を下回るため、ブラスチング発生を助長している可能性があると考えられました。そこで、国立研究開発法人花き研究所が開発した CO₂ 施用によるブラスチング発生抑制技術をもとに本県の栽培方法に適した高品質安定

生産技術を開発するため、CO₂ 施用方法と日中の換気温度、夜間の温度管理方法について検討しました。

その結果、表 1 に示した条件で CO₂ 施用と日中、夜間の温度を管理することにより、慣行管理（CO₂ 無施用、昼温 25℃、夜間 15℃一定）よりもブラスチングの発生が抑制され、切り花品質が向上することが確認されました（図 1）。

（花き担当 山田美保江 088-863-4918）